

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」～ 一期一会 ～

合宿地からの報告

～限界への挑戦～

今年も14の部活動が、それぞれの目標を胸に夏季合宿を実施しています。合宿は、技術や体力を高める場であると同時に、人として大きく成長する貴重な機会でもあります。日常とは異なる環境の中で仲間と寝食を共にし、苦楽を分かち合う経験は、生徒たちを一回りも二回りも成長させてくれるものと確信しています。

今回、サッカー部、吹奏楽部、合気道部、ダンス部の合宿の陣中見舞いに行ってきました。それぞれの活動に共通していたのは、「挑戦する姿」でした。

サッカー部では、照りつける真夏の太陽の下、選手たちが体力の限界に挑みながら懸命にボールを追いつけていました。流れる汗をぬぐう間もなく、一本のパス、一つのシュート、一回の守備に全力を注ぐ姿は実に頼もしく感じられました。ゲーム終了後にチーム間で課題等について共有しあう様子からは、勝利をつかむために、強い信頼関係を築こうとする姿勢を感じました。



吹奏楽部では、コンクールという大きな目標に向け、一音一音を大切にしながら練習に取り組んでいました。今年の曲は「祝典序曲『祈りは時の流れに輝く』」。冒頭、力強いファンファーレから、その後、テンポが速くなり、祈りの様子を表現しています。「感謝と発展」の祈りが込められており、パート練習では自らの課題と向き合い、合奏では互いの音を聴きながら一つの音楽を創り上げていく過程に、吹奏楽の魅力を改めて感じました。



合気道部の稽古は、畳を敷き詰める事から始めます。そして、礼に始まり礼に終わる一つひとつの所作には、伝統武道が大切にしてきた精神が息づいています。技を磨くだけでなく、自分自身と向き合い、相手を尊重し、心を整える姿勢は、本校が大切にする「心を育てる」ことにも通じるものがあります。落ち着いた雰囲気の中で、挑戦しようと努力する姿が大変印象的でした。



ダンス部では、大会での上位入賞という目標に向け、細かな動きや表現を何度も確認しながら練習を重ねていました。息の合った演技の裏側には、一人ひとりの地道な努力と、仲間への信頼があります。時には笑顔で、時には真剣な表情で互いに意見を交わしながら作品を高めていく姿は、まさにチーム二松そのものでした。



今回、改めて感じたことは、生徒たちは単に「練習」しているのではなく、「成長」しているということ。技術や体力はもちろん、忍耐力、責任感、仲間を思いやる心、そして困難に立ち向かう強さを、この合宿で確実に身につけてくれています。合宿後の変化が実に楽しみです。

その他の部活動についても、顧問の先生方から「学舎の窓」に活動報告が寄せられています。どの部も充実した日々を送り、それぞれの目標に向かって真摯に努力している様子が伝わってきました。この夏に流した汗は、必ず秋以降の大会や文化祭、そして学校生活の中で大きな実りとなって表れることでしょう。今からその成果を見ることを大いに楽しみにしています。

最後になりますが、生徒たちを温かく迎え、快適な環境を整えてくださった宿舎・施設の皆様、日頃から温かく見守り、送り出してくださった保護者の皆様、そして生徒たちと寝食を共にしながら、安全管理にも細心の注意を払い、熱意をもって指導に当たってくださった顧問の先生方に心より感謝申し上げます。多くの方々の支えがあるからこそ、生徒たちは安心して挑戦し、自らの限界を超えようと努力することができます。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。